

8. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組（大学院）

◎生涯学習学研究科 生涯学習学専攻

生涯学習学研究科では、人々の生涯学習の場と機会の時間的・空間的広がり、学習内容の深まり、学習要求の実現にとって障害となる要因に対応するため、生涯学習の基盤としての教育学や心理学を理解した上で、具体的な学習活動に関する指導理論と実践の関係について深く教育・研究を行う。また、今日の教育問題に対応しうる資質・能力の育成の視点から、学校教育、社会教育等の教育臨床場面において専門的、指導的立場で対応できる能力を身につけるための教育・研究を行う。

本研究科では、教育課程を「生涯学習学理論領域」と「生涯学習活動論領域」の二つの領域で編成している。

(1) 生涯学習学理論領域

この領域には、「教育学特論」「教育指導特論」「教育心理学特論」「心理検査特別演習」「臨床心理学特論」などを配置、児童生徒の発達、学習支援が可能な内容で教育課程を編成している。また「教職研究特論」「教育経営特論」「教育方法特論」「教育課程研究特論」「保育原理特論」などを配置し、教育課程を編成し、今日的な課題に対応できる教師養成を可能にしている。

(2) 生涯学習活動論領域

この領域には、「継続学習活動特別演習」「生涯学習活動特論」「生涯学習活動特別演習」などの継続学習に関する科目と「生涯芸術特論」「生涯美術指導特論」「生涯音楽指導特論」「芸術鑑賞特論」などの学習活動に関する科目で教育課程を編成している。

また二つの領域には、「特別支援教育特論」「障害者心理学特論」、「発達障害者指導特論」「特別支援教育コーディネーター特論」など、特別支援学校教諭専修免許状取得可能な科目も用意し、専門的かつ実践的な教師養成を可能にしている。

1年次において講義科目を中心に構成し、研究課題に関する演習科目も配置している。また、研究指導科目については修士論文作成の基本的能力の育成に力点を置いた指導を徹底する。また、2年次においては、研究課題に関連する講義科目、資格取得に関する科目を配置し、特に「心理検査特別演習Ⅰ・Ⅱ」「学校心理学特別演習」などは、学内ではあるが実習的な内容を取り入れ、研究を深める。

また、日本学校心理士認定運営機構が設定する「学校心理士」受験資格が取得可能なカリキュラムを設定し、幼児、児童及び生徒の学習、学校生活への援助に関する専門的な資質・力量を身につけ、「子どもの自己実現」を支援できる人材を養成している。

◎生涯スポーツ学研究科 生涯スポーツ学専攻

生涯スポーツ学研究科では、冰雪寒冷圏域に特有の健康問題を正しく理解し、冰雪寒冷環境を活かした運動を含めた対処法について分析する健康・スポーツ科学を基盤において進めて、生涯スポーツ社会の深化・発展貢献の役割を果たす。

本研究科の修士課程では、「冰雪寒冷圏域における生涯スポーツの進展に向けて高い実践能力と研究能力を有し、生涯スポーツの指導的役割を果たすことのできる人材養成」を目的とし、「スポーツ科学」「応用健康科学」「スポーツ教育学」の3つの教育研究分野を位置づけた。

(1) 「スポーツ科学教育研究分野」

スポーツの科学的研究手法を教育研究し、生涯スポーツの理論化と高度化に貢献する。さらに、生涯にわたって、安全で効率的なスポーツ活動を行うための知識基盤を形成する。また、冬季スポーツ種目の科学的分析の要請にも応える。

(2) 「応用健康科学教育研究分野」

冰雪寒冷圏域に特有な健康問題と生涯スポーツの関係の諸問題を教育研究し、その学術的な分野化を果たす。

(3) 「スポーツ教育学教育研究分野」

生涯スポーツの指導方法を教育研究し、生涯スポーツを振興していく方策を教育研究する。

そのほか、本研究科では生涯スポーツ学部スポーツ教育学科と同様にボランティアに力を入れている。例えば江別市教育委員会との「児童生徒の体力向上に関する連携事業」では、近隣の小学校低学年の児童を対象にした「朝運動プログラム」の指導補助や、いくつかの自治体の小学生や高齢者を対象とした体力測定会の測定員、札幌市の小学校のスキー実習の指導補助など。教員を志す学生たちに対して、こうした生涯スポーツに関わるボランティア活動への参加を促すことによって、子どもの体力の実態を把握し、どのような教育活動やプログラムが必要なのか考え、スポーツに関わる理論を実践する機会を提供している。

このように、本研究科では、子どもから高齢者、また障がい者も含め、あらゆる人へ適切な運動指導ができる能力の人材、冰雪環境の中でいかに運動するかを含め、北海道が抱える豊かな自然を利用したスポーツ活動を推進する人材の育成に努めている。